



図 25.22 皮膚クリプトコッカス症 (cutaneous cryptococcosis)
a: 蜂窩織炎様皮疹. b: 病理組織像. 莢膜を伴う胞子が組織球内に多数観察される.

より、放線菌性菌腫 (*Nocardia asteroides* など. 24 章 p.531 も参照) と真菌性菌腫 (*Pseudallescheria boydii* など) に分類される。これらの菌は土中に常在しており、戸外労働者の下肢、足部に好発する。毛包炎や慢性膿皮症に類似した病変が生じ、次第に拡大する。顆粒は直径 1 mm ~ 1 cm 大で、本態は菌塊である。年余にわたって経過し、関節や骨病変を形成することもある。

4. 皮膚アスペルギルス症 cutaneous aspergillosis ★

土壌などに広く存在する *Aspergillus* 属 (*Aspergillus fumigatus* など) による。多くは日和見感染として肺や外耳道に病変を形成し、皮膚病変はまれである。肺病変から血行性に菌が撒布されて全身に肉芽腫性病変を形成するもの (続発性皮膚アスペルギルス症)、長期臥床、ギプス固定などの局所要因を契機に、皮膚に直接寄生して体部白癬様や毛包炎様の皮疹をみるもの (原発性皮膚アスペルギルス症) などに分類される。

5. 皮膚クリプトコッカス症 cutaneous cryptococcosis ★

顔面や頸部、頭部に好発する。自覚症状のない瘡瘡様丘疹で始まり、次第に拡大して膿瘍を形成する。潰瘍や硬い皮下結節、蜂窩織炎などの多様な皮疹を呈する (図 25.22a)。土壌や、とくにハトの糞中に存在する *Cryptococcus neoformans* による、真皮~皮下組織の感染症である。皮膚の外傷部位に直接侵入して発症するもの (原発性皮膚クリプトコッカス症) と、吸入により肺病変をきたし、血行性播種によって全身皮膚に生じるもの (続発性皮膚クリプトコッカス症) とが存在する。後者は日和見感染として、ステロイド長期使用者や AIDS 患者にみられることがある。膿汁を墨汁法で鏡検すると、特有の厚い莢膜をもった胞子が観察される。病理組織学的検査 (図 25.22b)、真菌培養、血清中の *C. neoformans* 抗原ないし抗体測定なども診断に有用である。

6. パラコクシジオイデス症 paracoccidioidomycosis

同義語: 南米ブラストミセス症 (South American blastomycosis)

ラテンアメリカの風土病であるが、ごくまれに日本に持ち込まれることがある (輸入真菌症)。吸入感染で肺に病変を形成し、



図 25.23① パラコクシジオイデス症 (paracoccidioidomycosis)